

《今朝の聖書から》今朝は“説教”ということについて考えましょう。ちょうど今日は信徒礼拝で、そこで語られるメッセージは信徒を通して行なわれます。先週“二匹の魚と五つのパン”と呼ばれている箇所、主が“男が五千人ばかりもいたからである。しかしイエスは弟子たちに言われた、「人々をおおよそ五十人ずつの組にして、すわらせなさい」(ルカ9:14)”という、宣教の方法について学びました。そしてこの教えは、いまの言葉で言えば組会とか、セルチャーチというシステムが果たしている内容も含んでいるとも、聖書から学びました。沢山の組会ができれば、そこでは、説教とか、証しとか、奨励とか、どんな言葉が使用されようとも、“演説、倫理や道徳”についてではなく、神の救いについて、信仰者・信徒が聖霊の力によって語るようになるでしょう。また私たちは“わたしが福音を宣べ伝えても、それは誇にはならない。なぜなら、わたしは、そうせずにはおれないからである。もし福音を宣べ伝えなければ、わたしはわざわいである。(Iコリント9:16)”という言葉も知っています。訓練された説教者とはどんな人でしょうか。また訓練しなければならぬ私たち教会員にとって、時として、なんと思おうとも説教せざるを得ない事態に導かれるのですから、福音を延べ伝えるための訓練を避けてはいけません。訓練は決してたやすいことばかりではありません。説教は牧師にとってもしりごみするものです。誤りやすい人間が会衆の前に立って“何をなすべきかを人々に語ること”が自分にはむいていないけれど、権威が与えられているから語るのだと、思うのです。このようなごく判りやすそうな誤った思いは、聖書に於いて神様が持つておられる権威に対する確信のなさを表していますし、福音信仰そのものを損ねる信仰者になることを知らなければなりません。“自分からではなく、神によって”という、よく知っていることは、メッセージを語る、ということについても当てはまるのです。高校生や大学生が語る教会学校の“お話”にびっくりした経験はないでしょうか。語られる言葉に神を見るからです。文字で書かれ、読ませ“語らせられる”神様が説教に於いて体験されるのです。

週報

2007年 2月 25日



主の業に励もう コリント15:58

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル商会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸